

耕作道の機械除雪は二十一キロにも 上越市緊急消雪促進対策事業

今冬の豪雪を受け、上越市では緊急消雪促進対策事業に取り組んでいます。

5月9日現在、市農業振興課のまとめによりまずと、安塚、大島、牧区を中心に苗代用地や農道などの機械除雪が行われています。

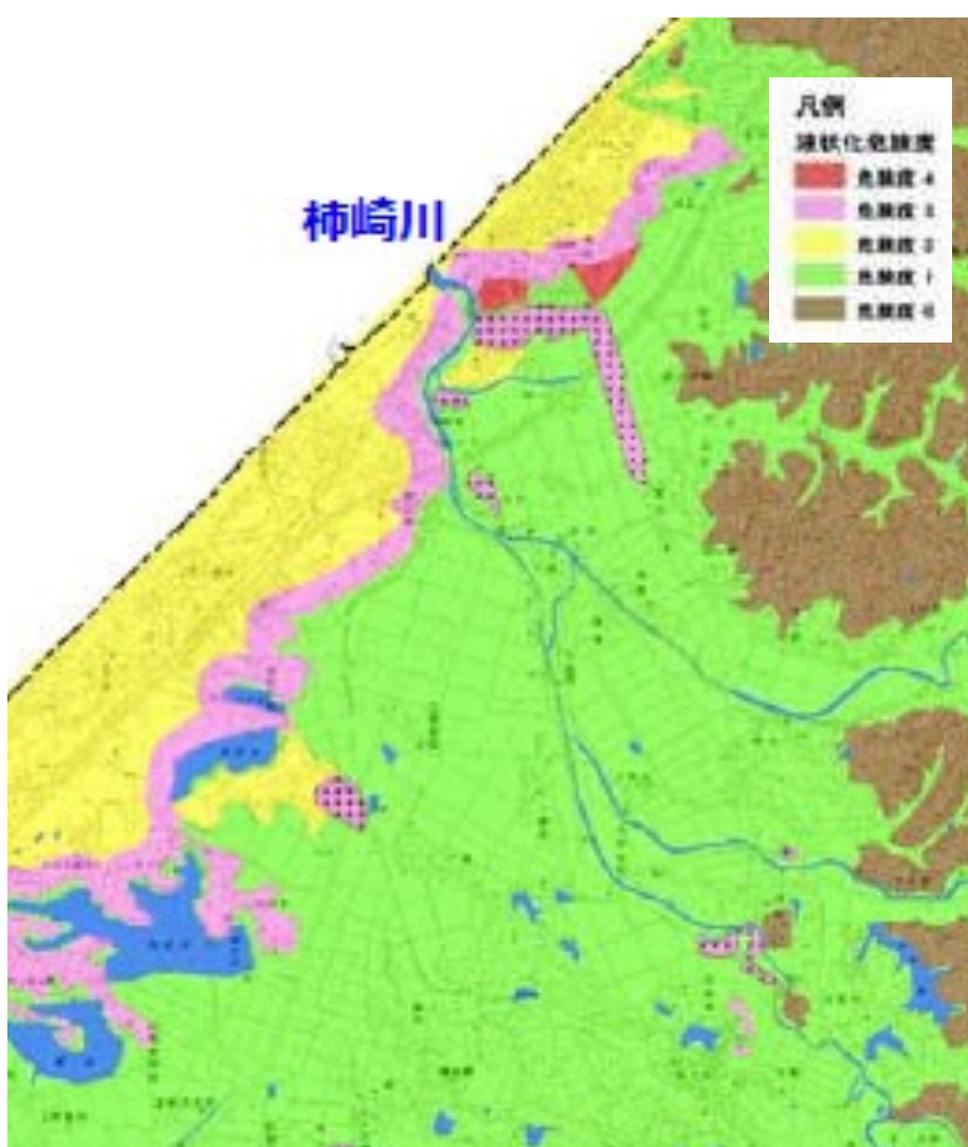
育苗用地の機械除雪で最も対象面積が多いのは安塚区で、7ヘクタール(町歩)近

くになっています。農道などの耕作道の機械除雪の距離が一番長いのは大島区の7・6キロメートルです。

関係農家・農業組織のなかからは、「苗代だけでも除雪費用は47万円もかかった。助かった」という声とともに、「農道はまだこれから。確実にやってほしい」との声も上がっています。



写真は牧区泉の苗代。記事とは関係なく撮影したものです。9日夕方、橋爪が撮影。



直江津、柿崎などに液状化しやすい地域

国土交通省北陸地方整備局はこのほど、県内の「液状化しやすいさマップ」を公開しました。市内では、「直江津地区を中心に宅地や工場の盛土造成地が広範囲に広がっており、可能性のある範囲を形成」「砂丘縁辺部では地下水位が総じて高いため、液状化の可能性を持つ」とされています。

ただ、このマップは、地盤の液状化という点にのみ注目し、「液状化しやすいさの傾向」を示したもののことです。地震被害想定マップではありません。

平成24年度上越市緊急消雪促進対策事業

平成24年5月9日現在

	補助対象事業費	市補助金額	育苗用地機械除雪	耕作道機械除雪	水田及び本畑かくはん作業	消雪促進剤散布(本田)
			対象面積(a)	対象延長(m)	対象面積(a)	対象面積(a)
合併前上越市	1,421,980	931,000	167.5	8,160		100.0
安塚区	9,168,950	6,528,000	698.5	71,400	734.0	
浦川原区	122,750	111,000	10.0	2,100		
大島区	7,562,192	5,861,000	423.0	76,640	734.2	40.0
牧区	集計中	3,913,000	512.0	34,716		
柿崎区	631,790	502,000	35.0	6,780		
吉川区	643,330	597,000	12.1	10,000		
中郷区	1,259,635	634,000	170.5	270		
板倉区	1,093,250	556,000	221.5	505		
清里区	991,040	524,000	135.4	1,100		
三和区	45,000	22,000	10.0	0		
名立区	73,150	40,000	16.1	175		
合計	23,013,067	20,219,000	2411.6	211,846	1468.2	140.0

※合併前上越市の区域ではこの他に育苗用地と本畑の消雪促進剤散布(10a)も補助対象に入っています。



NO 1552
2012.5.13

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 025-548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

五月になって間もないころの朝のことです。早朝の田園風景を撮りたいと思い、県道柿崎牧線を車で走っていたら、右前方にチューリップ畑が見えます。「うん、これはいい写真になるかも……」そう思い、車を止めて畑へ行きました。

畑の近くまで行ってみて、びっくりしました。赤、白、黄色のチューリップが三畝ほどの畑一面に広がっていて、とてもきれいだっただけからです。市議選に集中していたせいでしようか、何度も近くを通っていたにもかかわらず、こんなにもたくさんチューリップが咲いているのに気づきませんでした。

チューリップ畑の近くではMさんが耕運機を使って作業をしていました。私の姿に気づいたMさんは、機械を止めて、チューリップのところまでやって来てくださいました。

造成して間もなかった頃、この畑の土は固くしまっていてゴロゴロしていました。畑として使えるようにするには堆肥などを繰り返して入れて、土づくりをしなければなりませんでした。私も牛を飼っていた頃、堆肥を運んだ記憶があります。それが今は、細かく、黒々とした良い土になっていました。「いいベトになったね」そう言うと、Mさんは「まあ」と遠慮がちに答えていました。

Mさんがこの畑でチューリップを栽培し始めたのは三年前から。チューリップは、うまくすると球根が二つ、あるいは三つつくことがあります。球根は腐りやすいので消毒しているのですが、うっかりすると違う色のチューリップを混ぜてしまうことがあるとか。たしかに畑の一部に混じったものがありました。でも、どの花もまっすぐ上を向き、太陽の光をしっかりと受け入れようと大きく開いていて、とても美しく咲いていました。

Mさんの花にかける情熱のすごさは数年前、丹精込めて育ててこられたサツキの盆栽展を見て、初めて知りました。会場となったMさんの車庫はサツキを展示するためにもびったりで、飾られた盆栽の一つひとつがそれぞれ独自の美しさを持っていました。なかでも、一つの鉢全体がピンクと白の花でおおわれていた盆栽はあまりにも美しく、静御前が舞を舞っているのではないかと思うくらいでした。

チューリップ畑を見て、Mさんの花への思いはサツキだけではないことを知りました。おそらく、チューリップだけでなく、他の花にたいしても同じように、手間暇かけて世話をする人なのだと思います。

話の途中、Mさんは話題を変え、お孫さんのことについてニコニコしながら語りました。お孫さんは吉川小学校二年生です。先日、学校で担任の先生が子どもたちにたずねました。みなさんのお家（うち）で「野菜教室の先生」をやってくれる人はいますか。その時、お孫さんはさっと手を上げたというのです。

その時の様子を語るMさんはほんとうにうれしそうでした。お孫さんの学校での積極的な態度もさることながら、一生懸命野菜作りをしている自分の姿を見てくれたことが何よりもうれしかったのです。

チューリップを見に行った時、Mさんが耕運機で耕していた畑は、子どもたちの「野菜教室」の場所のひとつになるかも知れません。Mさんの頭のなかでは、すでにどんな授業をするのかのイメージがふくらみ、「子どもたちには、愛情込めて育てればいいものに育つことを教えたい」と言います。きっと楽しい授業になるでしょう。

備を進めておられます。写真は7日に撮影したものです。

ウワミズザクラの天ぷらも登場

恒例となった「山菜料理を楽しむ会」が5日、吉川区区内で行われました。市議選直後ということもあって、参加者は選挙戦でのエピソードなどを出し合い、飲み、語りました。初参加の人のなかには私と40数年ぶりに再会した人もあって、とてもうれしい会となりました。

山菜料理として出されたのはウド、コゴミ、タラの芽、ウワミズザクラ、ウルイなどの天ぷらです。揚げたてがじつに美味しかった。このなかでも注目されたのは、いま、花どきを迎えているウワミズザクラです。珍しがられました。

会では朗読、昔話、オカリナ演奏なども楽しみました。オカリナは今回も友人の重野昌平さんから来ていただき、「花祭り」「春よ来い」など数曲を演奏してもらいました。「春よ来い」は言うまでもなく、松任谷由実

の歌ですが、私の書き続けている随想のタイトルと同じこともあって、重野さんは特別の思いを込めて演奏してくださいました。

田植えを前に災害復旧工事進む

昨年7月の集中豪雨で被害のあった農地、農業用施設の災害復旧工事が急ピッチで進められています。

今冬の大雪で雪解けが遅くなったことから、工事が間に合うかどうか心配する声もありましたが、5月の高温によって雪解けが一気に進み、作業は順調に進んでいます。

日本共産党市議団では、できるだけ災害現場に足を運び、復旧状況などを確認しています。ご要望などがありましたら、橋爪までご連絡ください。写真は大島区大平地内の工事です。ここで苗代を作れなくなったため、耕作者の方は板山まで出かけて、田植えの準備を進めておられます。



ウワミズザクラの花の天ぷら

